

未来づくり懇談会（沢）会議録

日 時：平成29年8月17日（木）

18：30～20：00

場 所：沢自治公民館

出席者：市長、教育長、総合政策部長、
経済建設部長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

○持続可能な矢板東部地区のまちづくりについて

・資料に基づき、人口・高齢化率推移等を説明

Q1 豊田小学校の児童数、平成29年度40名とあるが、39名ではないか。

A1 那須学園にある、沢分教室を入れると40名になる。

Q2 豊田小は徐々に児童数が増えていくが、平成34年以降豊田小は維持していいのか。

A2 人数についてはそれほど急激に増えることはないと予測されている。現在、公共施設の再配置計画が出ている。具体的には今後学校の施設も含めて40%床面積のカットということを考えている。将来においてどうなるかということについては、具体的な計画案が出ていないので、今後検討をしていきたいと思う。

平成30年3月	矢板市公共施設再配置策定計画を策定
平成30年6月	矢板市立小中学校適正配置検討委員会を設置

Q3 豊田小はかなり立派な小学校で建物もかわいく、持続していきたいと思っている。よく考慮して頂いて将来的にも維持できるようにお願いしたい。

A3 公共施設再配置計画に基づいて、本年度公共施設の再配置計画策定委員会ができた。矢板市内の公共施設の中で一番多いのは公営住宅と学校。他市町に比べても多いので避けて通れない問題なので、そういう状況があるということだけをご承知おき頂きたい。

Q4 公共施設の再配置を今頃始めるのかという懸念を持った。市としてはどうしていくのか。

A 4 公共施設の総合管理計画、再配置計画は、矢板市だけが作っている計画ではなく、総務省から全国すべての自治体、市町村だけではなく都道府県に対しても、公共施設白書という計画を作り、その上で総合管理計画、再配置計画を作りなさいという指示が全国一斉に来て、全国的に始まった取り組み。どの市町村も、周辺の市町も一斉に取り組み始めたところ。また公共施設の再配置は、今後30年かけての計画で、今すぐの話ではない。

平成 29 年 5 月～6 月	第 1・2 回矢板市公共施設再配置計画検討部会及び策定委員会で公共施設再配置計画（骨子案）を策定。
平成 29 年 7 月～9 月	策定委員による現地調査実施。 再配置計画に関するシンポジウム開催。
平成 29 年 10～12 月	第 3・4 回矢板市公共施設再配置計画検討部会及び策定委員会で公共施設再配置計画（施設素案）を策定。 パブリックコメント実施。
平成 30 年 2 月	第 5 回矢板市公共施設再配置計画策定委員会でパブリックコメントの結果検討。
平成 30 年 3 月	矢板市公共施設再配置策定計画を策定

Q 5 豊田小の存続の件について、今の校舎は郵政省の補助事業で建てていると思うが、その返済が終わるまでは廃校にしないと聞いた。いつまでなのかということを確認したい。

A 5 豊田小は平成元年に建ったと思う。もう30年弱になるので起債の方は返し終わっていると思われる。補助金の方は、コンクリートだと60年だったかと思うが、そのくらいの年数は残存させる期間があるので、平成60年くらいになる。

Q 6 今後どのように人口推移のデータを活用して東部地区や市全体に反映していくのか。

A 6 人口減少社会に対してどのようにしていくかが国の地方創生の大きなテーマとなっている。地方創生には二つの方向性があり、一つは克服戦略。これは今までの取組みと同じように人口減少に歯止めをかけて、できれば人口を増やす方向に持っていく取組み。もう一つは適応戦略。ある程度人口が減少していく、ある程度高齢化が進んでいくことを、やむを得ないものだと受け入れる中で、地域のコミュニティや地方自治体をいかに守っていくかということ。
例を挙げると、高齢者の方の移手段の確保は問題だと思う。高齢者はゆくゆく車の免許を返納していく。その中で生活を考えたとき、車がなければ生活できないのが実態だと思う。車に頼らない交通手段をいかに確保していくのか。市営バスの充実やタクシー券の配布などの後ろ向きな取り組みもしなくてはならない。そのような視点も合わせて、これから矢板東部の地域づくりにとっては必要なのではないかと。

平成 29 年 10 月	75 歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の実証実験
平成 30 年 4 月	65 歳以上の運転免許証自主返納者の市営バス無料化

	65 歳以上 75 歳の誕生日まで
平成 30 年 4 月	75 歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の本格実施
平成 30 年 4 月	福祉タクシー券交付事業の見直し
	85 歳以上 → 80 歳以上 ※年齢引き下げ
	月 2 枚（最大 24 枚） → 年 24 枚
	市外タクシー業者との協定実施

Q 7 人口減少の原因として、非正規労働者制度が確立したために若い人が結婚できないのではないのか。

A 7 非正規労働者が増えて結婚できない。結婚できなければ当然子どもも生まれにくい。これは国政レベルや企業の経営の在り方の問題なので、市町村レベルではできないところもある。矢板市としては非正規労働者の方よりも正規労働者の方にしっかり働いてもらい、その上で税金を納めて頂けるような地域社会・地域経済ができれば、立ち直ってくるのではと思う。

Q 8 矢板市営住宅の空き部屋率は高いのではと思う。若い人に安い家賃で来てもらうような政策を取ってはどうか。

A 8 多くの市営住宅は老朽化している。若い世帯に住んでもらうためにはリフォームやエレベーターの設置など設備投資をするのは非常に大変。提案を受けて思ったのは、矢板市は民間のアパートの空きも多い。年配の方も含めて、民間アパートを借り上げ、そこを公営住宅扱いにして入って頂くとか、そういった取り組みをしていく必要もあるのではと思う。

5 意見交換

Q 1 県道矢板那珂川線の整備について、以前から課題の道路。

新幹線の交差点～ハッピーハイランドまでの歩道整備。新幹線の交差点～沢集落のカーブの整備。中北交差点から東部地区までの整備。沢から豊田の S 字カーブの整備についてお願いしたい。

A 1 県道なので矢板土木事務所が管理者になる。矢板土木事務所の所長をはじめ幹部職員と、市役所の市長をはじめ建設関係の職員とで意見交換の場を毎年行っている。情報共有の場のひとつでもあるが、市から県に対する要望の場でもある。その際に、歩道の部分、狭隘の部分については早急に着手して頂きたいと要望しているが、引き続き要望していきたいと考えている。

中北交差点から東部地区までの整備については、今年、矢板那珂川線のバイパス整備を要望させて頂いた。具体的には、かさね橋を渡って市道 3 号線（丁字路になっている箇所）から、まっすぐ突き抜けて中交差点にぶつけるようなバイパスを整備してほしいと、市として正式にお願いした。対して大回りのバイパスを作らなくても小回りのバイパスでいだろうというのが今のところの県の考えなので、現道かバイパスのどちらかとの話になると思う。

平成 29 年 5 月 土木行政連絡会議にて要望

平成 29 年 7 月 県土整備委員会にて要望

Q 2 バイパスを作るといのはいつになるのか分からない。待ってられないのは、4号線の拡幅工事はもう決まっている。国の方はきちんとやる。それに合わせてこれもやらなくてはならない。そんな悠長な考えであってはいけない。

A 2 4号線の拡幅工事は土屋の交差点まで決まっている。国が本気になって動き出したら、矢板拡幅の4号線を広げる方が先に完成する。先に完成した時に中北交差点がより渋滞して大変なことになる。だからバイパスを作るにしても、小回りのバイパスの方が現実的ではないかというのが県の考え方。当然県の方も国のスケジュールに合わせて重々考えている。

Q 3 県道の歩道の雑草が結構生える。その対策を県の方では8月に一回刈ったくらい。私も気が付けば刈っているが、ゴミを撤去するまではいかない。歩道だけは自転車も通るし年配者も通るので県に言って頂きたい。

A 3 県に伝える。

Q 4 空き家のもがりが毎年伸びて、行政区としてもその持ち主の方に連絡し、何とかしてくれと毎年言っているらしいが、一向にらちが明かない。仕方なく行政区の有志の方が剪定をやっている。行政区ではもう話を聞いてくれないみたいなので、市長名で何とかできるかお伺いしたい。

A 4 所有者の方に管理して頂くというのが一義的責任である。市長名で文書は出せるので、明日にでも現地を確認する。

Q 5 人口が減っていくという中で、農業をどのように持続していくか。持続可能なまちづくりを、農村地区ではどのような方向でやっていくのか。どこの集落でもそうなのだろうが、何かいい案があればお願いしたい。

A 5 沢地区は集落営農組織を立ち上げてあり、むしろ矢板市の中では見本になっている。ぜひその線でやって頂ければと思う。

Q 6 市庁舎が非常に老朽化している。あれは耐震構造になっているのか。また、基金の積み立てはできているのか。

A 6 市庁舎は昭和37年12月にできた庁舎で耐震補強もされていない。今年3月、初めて庁舎整備基金ということで1億円積み立てをさせて頂いた。庁舎を建てるのに市民生活を圧迫するわけにはいけないので、様子を見ながら、少しずつ基金を貯めていき、庁舎整備に結び付けていきたい。

平成 30 年 3 月 庁舎整備基金追加積立実施。

平成 30 年度以降 庁舎整備検討委員会設立。庁舎の整備方針検討、庁舎設置計画策定。

Q 7 豊田小前の市道に歩道を早急に作ってほしい。交通量が20分で約80台と非常に危険。

A 7 抜け道として利用している人がいると思う。しっかりした道路を整備することでおのずと交通量が減ってくると思う。

Q 8 片岡中学校と泉小学校の窓ガラスが割られた。矢板市内では小中学校に防犯カメラはついているのか。

A 8 割られた段階ではついていなかった。ガードマンが各学校に派遣され深夜に巡回するようにお願いしている。防犯カメラについては緊急性が高いということで、3中学校に設置した。小学校はこれから9月の上旬までには至急設置して予防策を取っていく。

平成 29 年 11 月 全ての小中学校への設置完了

6 閉 会 20:00